

政策 11 明日を担う子どもの育成

施策 01 幼児教育・保育の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
幼児	幼児の成長に適した環境が整備されています。

施策の成果状況と評価

指標	幼稚園・保育園・こども園の待機児童数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【こども課】	人	2	11	3	
評価	<p>(状況) 幼稚園・保育園・こども園の待機児童数は3人で、前年度に比べ8人減っています。内訳は平成28年10月1日時点での保育園・こども園の待機児童数で、幼稚園の待機児童はありません。なお、4月1日時点での待機児童は平成24年度から平成28年度までありません。</p> <p>(原因) 大東こども園と小規模保育施設ゆずの開所により保育の受け皿が増えたためです。</p>	(人)				<p>目 標 達 成 度</p> <p style="text-align: center;">■ ■ ■ (中)</p>	

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 教育内容の充実

基本事項 02 多様な保育ニーズへの対応

基本事項 03 家庭や地域社会の教育力の向上

基本事項 04 安全・安心対策の充実

基本事項01 教育内容の充実

指標	3～5歳の幼児教育を受けている園児の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【こども課】	%		64.3	70.7	→
評価	<p>(状況) 市内3歳から5歳の子どものうち、幼児教育を受けている園児の割合は70.7%となっており、前年度に比べ6.4ポイント向上しています。年齢別の割合は、3歳児が52.6%、4歳児が80.0%、5歳児が78.4%となっています。</p> <p>(原因) 平成27年度から子ども・子育て支援新制度が開始となり、これまでの幼稚園における4歳から5歳児の受入に加え、認定こども園において、3歳児の受入が可能になり、幼児教育を受けることができる年齢が広がりました。平成28年度は大東こども園、なのはなこども園が開園したために実績値が前年度に比べ向上しました。</p>						☀ (向上)
		■ (中)					

基本事項02 多様な保育ニーズへの対応

指標	平成26年度に策定した子育て支援事業計画で定めたニーズ見込量に対するサービス供給割合(1号・2号・3号)	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【こども課】	%		84.3	87.8	
評価	<p>(状況) 子育て支援事業計画で定めたニーズ見込量に対するサービス供給割合は87.8%で、前年度に比べ3.5ポイント向上しました。利用者数は、保育所が40人減って712人、幼稚園は23人減って410人、こども園は80人増えて1,036人となっています。</p> <p>(原因) 平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、既存の保育所に加え、認定こども園や小規模保育所が整備され、サービス供給体制が整ったためです。</p>						☀ (向上)
		■ (高)					

基本事項02 多様な保育ニーズへの対応

指標	認定こども園(幼稚園・保育所一体化施設)整備率	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【こども課】	%	17.4	20.8	29.2	→
評価	<p>(状況) 認定こども園の整備率は29.2%です。平成25年度が4.1ポイント、平成26年度が3.8ポイント、平成27年度が3.4ポイント、平成28年度が8.4ポイントと、それぞれの年度で、前年度に比べ、実績値が向上しました。</p> <p>(原因) 平成25年度に「認定こども園くるみの木」、平成26年度に「天泉こども園」が開設されました。平成27年度には「認定こども園ターシャの森」が「すぎのこども園」と「プリムラこども園」の2施設になり、1施設増えました。また、平成28年度には「なのはなこども園」と「大東こども園」の2施設が新設されたためです。</p>						☀ (向上)
		■ (低)					

基本事項03 家庭や地域社会の教育力の向上

指標	地域のための開放・多世代交流をしている幼稚園・保育園・こども園の施設数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【こども課】	施設	11	13	14	
評価	<p>(状況) 地域のために開放・多世代交流をしている幼稚園・こども園・保育園数は14施設で、前年度に比べ1施設増えています。</p> <p>(原因) 子育て支援センターが1施設増えたためです。</p>						☀ (向上)
		■ (低)					

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 教育内容の充実

基本事項 02 多様な保育ニーズへの対応

基本事項 03 家庭や地域社会の教育力の向上

基本事項 04 安全・安心対策の充実

基本事項04 安全・安心対策の充実

指標	一斉連絡メールに登録している保護者の割合 【こども課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	77.7	83.3	85.8	→	
評価	(状況)一斉連絡メールシステムに登録している保護者の割合は85.8%で、前年度に比べ2.5ポイント上昇しています。 (原因)安全・安心に対する保護者の意識の高まりとスマートフォン等の機器の普及、一斉メール配信システムの浸透が考えられます。						☀ (向上)
		目標達成度	■■■ (高)				

政策 11 明日を担う子どもの育成

施策 02 子育て支援の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
子ども、子どもの保護者	子育て支援の環境が整備されています。

施策の成果状況と評価

指標	この地域で子育てをしたいと思う保護者の割合 【こども課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%		96.7	96.5		→
評価	(状況) 乳幼児健康診査(3・4か月、1歳6か月、3歳)の調査項目である、「この地域で子育てをしたいと思う保護者の割合」は96・5%です。内訳は、3・4か月児健康診査96・1%、1歳6か月健康診査96.0%、3歳児健康診査97.2%となっています。 これは、厚生労働省が公表している「健やか親子21(第2次)」の最終評価目標値である95.0%を上回っています。 (原因) 乳幼児期の子育て環境について、母子保健事業や子育て支援事業の実施により、保護者がほぼ満足しているためと考えられます。						目標 達成度
		■ (高)					

指標	子育てに係る相談体制や保育サービスが充実していると感じる保護者の割合 【こども課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	63.4	-	62.4		→
評価	(状況) 子育てにかかる相談体制や保育サービスが充実していると感じる保護者の割合は62.4%です。性別で見ると、男性が68.8%、女性が59.6%が充実していると感じています。年齢別では、20代76.9%、30代48.8%、40代69.7%となっています。 (原因) 子育てに係る相談体制や保育サービスが充実していると感じる市民割合は、横ばいとなっており、女性の社会進出により共働き世帯が増加傾向にあり、保育所や児童クラブ等の待機児童が解消されないことや子育てニーズが多様化していることなどが考えられます。						目標 達成度
		■ (中)					

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01	多様な保育サービスの充実
基本事項 02	児童の健全育成
基本事項 03	子育て相談体制の充実
基本事項 04	各種経済的支援の推進
基本事項 05	発達支援サービスの充実

基本事項01 多様な保育サービスの充実

指標	特別保育（一時保育、延長保育、病児・病後児保育）、子育て支援センターの実施施設の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【こども課】	%	100	100	100	→	(向上)
評価	(状況) 特別保育はすべての施設で行われているため、成果は100%です。 (原因) 平成26年度からすべての公立保育所で延長保育を行うようになったためです。						目標達成度
							(達成)

基本事項02 児童の健全育成

指標	児童クラブの待機児童数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【こども課】	人	12	28	14	→	(向上)
評価	(状況) 児童クラブの待機児童数は14人で、前年度の28人に比べ14人減りました。 (原因) 児童数の多い西袋地区で、会議室を借りて第三西袋児童クラブ館を開設し、児童の受け入れをしたため待機児童は減少しましたが、一部の地区で高学年（4～6年生）の受け入れが難しい状況です。						目標達成度
							(中)

基本事項02 児童の健全育成

指標	児童福祉施設の利用延べ人数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【こども課】	人	276,709	263,353	267,466	→	(向上)
評価	(状況) 児童福祉施設の利用延べ人数は267,466人で、前年度に比べ4,113人（児童館1,420人減、児童クラブ館7,615人増、屋内遊び場2,082人減）増加しています。 (原因) 児童館は、保育所・こども園内にある子育て支援センターの利用者が増えたために減少しています。児童クラブ館は、須賀川一小児童クラブ館を平成27年8月から、第三西袋児童クラブ館を平成28年4月から開設したために、利用延べ人数が増加しています。屋内遊び場は、震災から6年がたち、除染も行われ、外遊びをする子どもが増えたため減少しています。						目標達成度
							(中)

基本事項02 児童の健全育成

指標	放課後に安全に遊ぶ場所が確保されていると思う保護者の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【こども課】	%	43.3	-	49.1	→	(向上)
評価	(状況) 放課後に子どもが安全に遊ぶ場があると思う保護者の割合は、平成26年度の実績値よりも5.8ポイント向上し、49.1%となっています。 (原因) 平成27年度に須賀川一小児童クラブ館を整備、開設し、平成28年度に大東児童クラブ館を整備、開設したほか、第三西袋児童クラブ館を会議室を借りて開設し、放課後の児童の受け皿を増やしたためと考えられます。						目標達成度
							(中)

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 多様な保育サービスの充実

基本事項 02 児童の健全育成

基本事項 03 子育て相談体制の充実

基本事項 04 各種経済的支援の推進

基本事項 05 発達支援サービスの充実

基本事項03 子育て相談体制の充実

指標	子育ての相談をする相手がない保護者の割合 【こども課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	15.1	-	11.4	→	
評価	<p>(状況) 子育ての相談をする相手がない保護者の割合は11.4%で、平成26年度と比べ3.7ポイント低下しています。性別でみると、男性18.8%、女性が7.7%と男性のほうが子育ての相談をする相手がない割合が高くなっています。年齢別では、20代7.7%、30代5.0%、40代11.7%、50代30.8%となっています。</p> <p>(原因) 子育て支援センターが整備され相談体制の充実が図られたためと考えられます。</p>						(向上)
		目標達成度	---				

基本事項04 各種経済的支援の推進

指標	子ども一人あたりの経済的支援した金額 【こども課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		円		175,748	176,855		
評価	<p>(状況) 子育て家庭への経済的支援を行った金額は、約2,245,001千円で、18歳未満の児童数で除した一人当たりの金額は176,855円です。</p> <p>(原因) 子育て家庭の経済的負担を軽減するため、児童手当、こども医療費助成、児童扶養手当、就学援助等、該当者への適切な支援を行っています。また、平成28年度から「すくすく赤ちゃん心援事業」を実施し、乳幼児のいる子育て家庭への経済的負担軽減に努めています。</p>						---
		目標達成度	---				

基本事項05 発達支援サービスの充実

指標	発達支援・療育サービス事業の利用者数 【社会福祉課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		人	78	106	129		
評価	<p>(状況) 発達支援・療育サービス事業の利用者数は129人で、前年度と比べ23人増となり、成果が向上しています。</p> <p>(原因) 市内の障がい児通所施設は、平成27年度まで3事業所（たけのこ園、はるにれ園、はっぴいチャイルド）でしたが、平成28年度に3事業所（ルーチェ、プレップスクール、ひだまりの庭）増となりました。このため利用者数（通所児童数）が増加したと考えられます。</p>						(向上)
		目標達成度	---				

基本事項05 発達支援サービスの充実

指標	継続的に発達支援サポートしている人数（サポートブックで登録管理している人数） 【社会福祉課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		人	3	17	29		
評価	<p>(状況) 継続的に発達支援サポートしている人数は29人で、前年度と比べ12人増となり、成果が向上しています。</p> <p>(原因) 障がい児については、早期発見、早期対応が求められるところであり、乳幼児健康診査での早期発見や乳幼児すこやか発達支援事業により、早期の関わりを行った結果が12人増につながった要因と考えられます。</p>						(向上)
		目標達成度	---				

政策 11 明日を担う子どもの育成

施策 03 学校教育の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
児童・生徒、市民	変化の激しい社会に的確に対応できる「生きぬく力」が備わっています。

施策の成果状況と評価

指標	総合学力調査による学習定着度（正答率が全国平均より高い科目）	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【学校教育課】 須賀川市総合学力調査	科目	10/14	9/14	9/14	→
評価	<p>(状況) 総合学力調査による学習定着度（正答率が全国平均より高い科目）は、14科目中9科目で前年度と同じです。また、全国平均を下回った5科目の正答率を全国平均と比べると差が2%以内で大きな差はありませんでした。</p> <p>(原因) 小学校算数科で、4年・5年・6年の正答率が全国平均を下回っています。特に、学んだことを使う活用問題の正答率で全国と差があり、活用問題を解く力が十分に身につけていないことが原因と考えられます。</p>						目 標 達成度
							■ (中)

指標	児童・生徒の道徳性が身についていると思う市民の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【学校教育課】	%	27.9	-	23.6	→
評価	<p>(状況) 児童・生徒の道徳性が身についていると思う市民の割合は23.6%です。市民アンケートの6項目中3項目以上を選んだ市民の割合です。「友達関係」が41.6%と一番高いですが、「地域行事への参加」が12.6%、「家事を手伝う」が14.1%と低下しています。「地域行事への参加」では長沼地区、岩瀬地区、小塩江地区では16~17%と比較的高い数字ですが、その反面5.0%や6.0%の地区があります。</p> <p>(原因) 地域によっては、家族や地域の一員としての自覚が薄らいでいることが考えられますので、今後はPTAや地域を巻き込んだ教育活動を展開するなど、小中一貫教育を推進していきます。</p>						目 標 達成度
							■ (中)

指標	全国体力・運動能力調査による種目別平均値を超えた種目数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【学校教育課】	種目	9	12	16	→
評価	<p>(状況) 34種目中16種目で全国平均値を上回り、前年度に比べ4種目増加しています。特に小学校5年女子では8種目中7種目、小学校5年男子では4種目が全国平均を上回り、握力は小・中男女ともに全国平均を上回っています。</p> <p>(原因) 中学校に比べ小学校男女で全国平均を上回っている種目が多いことから、各小学校で取り組んでいる運動身体づくりプログラム等の取組の成果があらわれていると思われます。また、水泳交歓会や地区陸上交流大会の実施による運動機会の確保が良い影響であると考えられます。</p>						目 標 達成度
							■ (高)

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 確かな学力の育成

基本事項 02 心の教育の充実

基本事項 03 健康教育の充実

基本事項 04 学校教育と社会教育の連携・融合

基本事項 05 開かれた学校づくりの推進

基本事項 06 ふるさと学習の推進

基本事項01 確かな学力の育成

指標	国語と算数（数学）が好きと答えた児童生徒の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	%	65.6	65.3	64.5	→	
評価	全国学力学習状況調査						☁ (横ばい)
	<p>(状況) 全国学力学習状況調査の意識調査で、小学校6年生が国語と算数を「好き」または「やや好き」と答えた児童は64.5%です。これは全国平均を4.0%、県平均を0.8%上回っています。また、中学校3年生では63.2%です。これは全国平均を5.2%、県平均を5.7%上回っています。</p> <p>(原因) 国語と算数（数学）が好きと答えた児童生徒の割合の全国平均は60%で、本市は4.5ポイント上回っています。各学校において、子どもたちに興味関心を高める授業改善の工夫がなされていると考えられます。</p>						目 標 達成度 ---

基本事項01 確かな学力の育成

指標	学力調査における最終学年（小6の国・算、中3の国・数・英）の平均正答率が全国平均を上回った科目数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	科目	3	1	2	→	
評価	<p>(状況) 平均正答率が全国平均を上回った科目数は2科目です。正答率で全国平均と比べると、中学3年国語が2.4、英語が0.3ポイント上回りました。小学6年国語・算数、中学3年数学は全国平均と比べ下回っていますが、標準スコアで全国平均と比べると差が0.4ポイント以内となっており、ほぼ全国平均といえます。</p> <p>(原因) 小中一貫教育の推進において、小中合同の授業研究会の実施や家庭との連携を深める取組が行われ、学力の向上に繋がっていると考えられます。算数・数学については、さらに指導の充実を図る必要があります。</p>						☁ (横ばい)

基本事項02 心の教育の充実

指標	不登校児童生徒数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	人	58	54	58	→	
評価	<p>(状況) 不登校児童生徒数は58人で、前年度の54人に比べ4人増加しています。平成27年度の1,000人当たりの不登校出現数をみると、全国が12.6人、県が12.3人であるのに対し、本市は7.9人で、全国、県と比較して少ない出現数となっています。</p> <p>(原因) 平成28年度不登校児童生徒の内訳は小学生8人、中学生50人で、平成27年度から小学生は2人減少、中学生は6人増加しています。しかしながら、30日以上長期欠席児童生徒数は平成26年度の118人、平成27年度の124人から平成28年度は88人と大きく減少しており、各学校が長期欠席者を積極的に不登校と認定して、その復帰に向けて力を注いでいると考えられます。</p>						☁ (横ばい)

基本事項02 心の教育の充実

指標	不登校児童生徒学校復帰率	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	%	19.0	26.4	20.7	→	
評価	<p>(状況) 不登校児童生徒学校復帰率は20.7%です。平成26年度まで急激に高まった復帰率から、落ち着いてきた状況です。</p> <p>(原因) スクールカウンセラーや心の教室相談員、スクールソーシャルワーカーを配置し、各学校相談体制や支援体制が整いつつあり、不登校の状況となったとしても、各学校における多角的な支援により、復帰できる環境が整ってきていると考えられます。</p>						☀ (向上)

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 確かな学力の育成

基本事項 02 心の教育の充実

基本事項 03 健康教育の充実

基本事項 04 学校教育と社会教育の連携・融合

基本事項 05 開かれた学校づくりの推進

基本事項 06 ふるさと学習の推進

基本事項03 健康教育の充実

指標	肥満児童生徒の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【学校教育課】	%	13	12	14	➔
評価	<p>(状況) 肥満児童生徒の割合は14%です。特に小学校5年男子の肥満児童割合が19%となり前年度から7ポイント増加しています。小学5年女子も14%であり、中学2年男子と中学2年女子の12%と比べ、小学校で高い割合となっています。</p> <p>(原因) 該当学年である小学5年生と中学2年生は、小学1年生の時から肥満傾向児出現率が高い学年であり、これは幼少期の適度な運動習慣と適切な食習慣が身に付いていないことが原因であると考えられます。</p>						目標達成度 ■■■ (中)

基本事項03 健康教育の充実

指標	運動が好きな児童生徒の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【学校教育課】	%	58.65	55.12	55.18	➔
評価	<p>(状況) 運動が好きな児童生徒の割合は55.18%で、実績値はほぼ横ばいです。小学5年男子では73.4%と平均を20ポイント近く高くなっています。しかし、中学2年女子では37.1%と20ポイント近く低くなっています。</p> <p>(原因) 中学2年女子の運動好きな生徒の割合が37.1%と全国平均の46.9%を9.8ポイント下回ったことが、実績値がほぼ横ばいになった要因です。中学女子では音楽や文芸への興味関心が高まり運動から離れる傾向があることから、今後は中学女子の保健体育科の授業において、運動の楽しさを味わわせる工夫が必要であると考えられます。</p>						目標達成度 ■■■ (中)

基本事項03 健康教育の充実

指標	運動能力の向上を要する児童・生徒の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【学校教育課】	%	27.56	26.00	22.60	➔
評価	<p>(状況) 運動能力の向上を要する児童・生徒の割合は22.60%で、前年度に比べ3.40ポイント低くなっています。2年続けて低くなっており大変良い傾向です。また、中学2年女子では8.9%、小学5年女子では18.0%と、全国と比べて運動能力の向上を要する児童・生徒の割合が低くなっています。</p> <p>(原因) 各学校で授業や体育の行事など、運動する機会がしっかり確保されています。今後も運動能力の向上を要する児童生徒に対して、授業では課題解決の場の設定や意欲の高揚などを継続させていただきます。</p>						目標達成度 ■■■ (中)

基本事項04 学校教育と社会教育の連携・融合

指標	学社連携・融合事業の参加者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【生涯学習スポーツ課】	人	1,436	1,635	2,054	➔
評価	<p>(状況) 学社連携・融合事業への参加者数は2,054人で、前年度より419人増加し、平成24年度基準値の1,325人より729人上回っています。</p> <p>(原因) 地区ごとの連携・協力が一段と深まり、事業実施についても創意工夫が図られ、円滑な運営や新たな事業展開が図られたからだと思います。特に小塩江公民館と小塩江中学校合同文化祭の実施、稲田体育振興会主催の「土曜スポーツ塾」の事業を学社連携事業として展開することができました。</p>						目標達成度 ■■■ (高)

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 確かな学力の育成

基本事項 02 心の教育の充実

基本事項 03 健康教育の充実

基本事項 04 学校教育と社会教育の連携・融合

基本事項 05 開かれた学校づくりの推進

基本事項 06 ふるさと学習の推進

基本事項05 開かれた学校づくりの推進

指標	学校の教育活動へ参加・協力している市民の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	%	16.1	-	13.6	→	
評価	<p>(状況)学校の教育活動へ参加・協力している市民の割合は13.6%で、平成26年度実施のアンケートより2.5ポイント低下しています。登下校の安全確保活動への協力は増えていますが、学習活動や図書ボランティア活動への協力が減っています。</p> <p>(原因)全国的に登下校時の事件・事故が起きていることから、子どもを見守り、安全を確保しようとする意識が高まってきていることが考えられます。学習活動等への協力については、中学生以下の子どもがいない世帯への情報提供や協力呼びかけなどが十分ではないこと、学校と地域人材とをつなぐ機能が十分ではないことなどが考えられます。</p>						(横ばい) 目標達成度 (低)

基本事項05 開かれた学校づくりの推進

指標	学校評議員による学校評価の平均点数(5点満点)	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	点	4.12	4.18	4.14	→	
評価	<p>(状況)学校評議員による学校評価の平均点数は4.14点で、前年度より0.04点減少しましたが、順調な状況です。</p> <p>(原因)各学校においては、学校評議員会が計画的に開催され、学校教育活動の点検や改善に役立っています。また、合同学校評議員会を開催する中学校区が増え、児童生徒9年間の成長を地域単位で考えることが学校への評価につながってきていると考えられます。</p>						(横ばい) 目標達成度 ---

基本事項06 ふるさと学習の推進

指標	ふるさと読本を使用した授業時数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	【学校教育課】	回	442	398	306	→	
評価	<p>(状況)ふるさと読本の活用回数は306回で、前年度と比べ92回減少しています。</p> <p>(原因)小学校、中学校ともに活用回数が増えています。前年度との比較から「十分に活用しやすい」は10校、「活用するには課題がある」は3校で変化は見られませんが、「まあまあ活用しやすい」は13校から12校に減少しました。主にどの学校も授業時数に余裕がなくなり、活用の時間がとれなくなっていることなどが理由です。効率的な資料活用に関する教職員の研修、積極的な広報活動も必要と考えています。</p>						(向上) 目標達成度 (高)

政策 11 明日を担う子どもの育成

施策 04 学校教育施設の整備・充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
小・中学生 小・中学生の保護者	児童・生徒が快適な学校生活を送れるよう施設の整備・充実が図られます。

施策の成果状況と評価

指標	施設維持管理上の不具合による教育支障件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【教育総務課】	件	0	0	0	→
評価	(状況) 施設維持管理上の不具合による教育支障件数はなく、保守、維持修繕と改修により安全な教育環境を保っています。 (原因) 毎年各学校を訪問し、実施している営繕調査により、学校からの要望について、重要度を判断し行なっています。予算に計上した改修や修繕を計画的に執行したことにより、成果向上につながっています。	(件) 					目標 達成度 🏰 (達成)

指標	敷地内における事件事故に巻き込まれた件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【教育総務課】	件	0	0	0	
評価	(状況) 学校敷地内における事件事故の発生はなく、安全な施設管理が行われています。 (原因) 毎年各学校を訪問し、実施している営繕調査等により、危険箇所等を把握し、必要な修繕について、選択し実施していることと、学校で適正な施設管理が行われているためです。今後もこの状態が保たれるよう施設管理を行います。	(件) 					目標 達成度 🏰 (達成)

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 校舎等の耐震化の推進

基本事項 02 教育環境の計画的整備の推進

基本事項01 校舎等の耐震化の推進

指標	校舎・体育館耐震化率（総合計画開始年度からの累計）	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【教育総務課】	%	73.7	77.3	94.7	→
評価	<p>(状況)校舎・体育館の耐震化率は94.7%で、平成24年度基準値の66.7%に比べ28.0ポイント、前年度実績値に比べ17.4ポイント向上しており、耐震化が大幅に進んでいます</p> <p>(原因)体育館の耐震補強を小学校8校、中学校2校実施したことにより、すべての体育館の耐震補強が完了しました。校舎についても、長沼小の西校舎の耐震補強1期工事が完了したことによります。</p>						☀ (向上)

基本事項02 教育環境の計画的整備の推進

指標	改修等により安全で適正な学校施設になった延べ件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【教育総務課】	件	30	41	62	→
評価	<p>(状況)改修等により安全で適正な学校施設になった延べ件数は62件で、平成24年度基準値の11件から51件増加し、前年度実績値から21件増加しています。</p> <p>(原因)体育館の耐震補強に合わせ水銀灯をLED電灯に交換したことから件数が増えました。校舎・体育館の改築の実施により修繕の必要な校舎等は減少していますが、建設から年数が経過した校舎等も多く、各学校からの修繕要望は多いです。毎年学校を訪問し実施している営繕調査により修繕の重要度を判断し、防水修繕工事や内部改修工事などを予算の範囲内で実施しています。</p>						☁ (横ばい)

政策 11 明日を担う子どもの育成

施策 05 家庭教育の向上と青少年育成の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	家庭、学校や地域社会がそれぞれの特性を生かしながら密接に連携を図り、青少年が健全に育成されています。

施策の成果状況と評価

指標	家庭・学校、地域社会が密接に連携して家庭・青少年の教育がなされていると思う市民の割合 【生涯学習スポーツ課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		%	44.8	-	44.3	→	☀
評価	(状況) 家庭・学校、地域社会が密接に連携して家庭・青少年の教育がなされていると思う市民の割合は44.3%で、前回実施のアンケート結果とほぼ横ばいの状況です。 (原因) 実績値が半数に満たないのは、家庭、学校、地域社会が連携している事業や行事等の内容について、理解されていない傾向があると思われます。	(％) 				☀	
						→	☀ (向上)
						■ ■ ■	(低)

指標	青少年の補導者数 【生涯学習スポーツ課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		人	209	145	155	→	☁
評価	(状況) 青少年の補導者数は155人で、前年度に比べ10人の増となっています。 (原因) 補導内容としては、深夜はいかい、喫煙といった非行が増加していると考えられます。しかし、青少年の補導者数は、前々年度から54人大きく減少するなど長期的には減少傾向にあり、要因としては、少子化や青少年が屋外で活動する機会が少なくなってきたなど、青少年を取り巻く社会環境の変化が考えられます。	(人) 				☁	
						→	☁ (横ばい)
						■ ■ ■	(中)

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 家庭教育の充実

基本事項 02 青少年教育の充実

基本事項 03 青少年を取り巻く社会環境への対応

基本事項01 家庭教育の充実

指標	基本的な生活習慣が身につけている園児の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【生涯学習スポーツ課】	%	99.1	98.0	98.4	→	☁️ (横ばい)
評価	(状況) 基本的な生活習慣が身につけている園児の割合は98.4%で、前年度に比べ横ばいの状況となっています。 (原因) 各家庭において、基本的な生活習慣を身につけさせるための手立てや実践力がしっかり定着しているからだと思います。実績値が2年連続で高い実績値を示し、家庭教育事業の成果が十分に表れています。						目標達成度 ■■ (中)

基本事項01 家庭教育の充実

指標	基本的な生活習慣が身につけている児童の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【生涯学習スポーツ課】	%	72.5	74.1	73.2	→	☁️ (横ばい)
評価	(状況) 基本的な生活習慣が身につけている児童の割合は73.2%で、前年度に比べほぼ横ばいの状況となっています。(調査対象小4児童) (原因) 各家庭において、基本的な生活習慣を身につけさせるための手立てや実践がしっかり定着しており、実践されているものと思われます。各小学校で行われている家庭教育学級等の講座開催が充実しており、基本的な生活習慣の定着が図られている成果だと思われます。						目標達成度 ■■ (中)

基本事項01 家庭教育の充実

指標	基本的な生活習慣が身につけている生徒の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【生涯学習スポーツ課】	%	79.4	74.9	80.2	→	☁️ (横ばい)
評価	(状況) 基本的な生活習慣が身につけている生徒の割合は80.2%で、前年度に比べ、5.3ポイント向上しました。(調査対象中学1年生) (原因) 各家庭において、基本的な生活習慣を身につけさせるための手立てがしっかり定着しており、実践されているものと思われます。各中学校で行われている家庭教育学級等の講座開催が充実しており、基本的な生活習慣の定着が図られている成果だと思われます。						目標達成度 ■■■ (高)

基本事項02 青少年教育の充実

指標	青少年教育事業への延べ参加者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【生涯学習スポーツ課】	人	7,021	6,388	6,513	→	☁️ (横ばい)
評価	(状況) 青少年教育事業への延べ参加者数は6,513人で、前年度に比べ125人増加しました。 (原因) 青少年教育事業が1事業増え、全45事業となったことや、開催講座が地域の青少年たちに周知、浸透してきたことなどが挙げられます。少子化により、年々、子どもの数は減少していますが、小・中学校などを通じ、事業の周知を積極的に行うことで、参加者の増加を図ります。						目標達成度 ■■ (中)

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 家庭教育の充実

基本事項 02 青少年教育の充実

基本事項 03 青少年を取り巻く社会環境への対応

基本事項03 青少年を取り巻く社会環境への対応

指標	少年補導員の街頭補導における通報、声かけ件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【生涯学習スポーツ課】	件	332	88	188	➔
評価	(状況) 少年補導員の街頭補導における通報、声かけ件数は188件で、前年度に比べ100件増加しています。 (原因) 延べ505人の少年補導員が参加し、84回の街頭補導を実施しました。特に、こまめな見回りと声掛けを行う「愛の一声運動」の実施により、声掛け件数が増えました。	(件) 					---
		目標達成度	---				

基本事項03 青少年を取り巻く社会環境への対応

指標	青色回転灯防犯パトロール実施における通報件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【生涯学習スポーツ課】	件	0	0	0	➔
評価	(状況) 青色回転灯防犯パトロール実施における通報件数は0件で、前年度と同水準となっています。 (原因) 防犯活動や不審者対策のため、青色回転灯防犯パトロールを装着した公用車10台が、計54回パトロール活動を実施しており、こまめな見回りが効果を発揮しているものと思われます。	(件) 					(横ばい)
		目標達成度	■■■ (高)				